

里山を守る高齢者コミュニティ

—高齢者の農業利用による里山保全—

Keywords

奥山、中間域、里山、農業
高齢者、交流



DZ18002 石鍋 裕也

1. はじめに

1.1 研究背景

今日、森林伐採や生物の絶滅などと、様々な環境問題が存在していると考えられる。そこで日本の山や森林で起きている問題やその現状について考察する。

山や森林における環境問題として、開発・開拓による森林伐採、森林縮小による野生生物の減少、木の実が生る広葉樹が減り野生動物の食糧不足、食料難で山を下りた野生動物による獣害、また獣害対策として殺処分される野生動物。このように今日の日本では様々な環境問題が存在している。一方で、近年の人の暮らしは自然環境を多少汚染してでも利便性や効率性を重視し、様々な問題が起こりつつも環境問題を他人事のように認識していると感じる。

限りある資源のもと生きている我々は環境問題についてより深刻に考え、自然と共に暮らしていく方法を考えるべきではないだろうか。

1.2 研究目的

日本には自然資源を利用して暮らす「里山暮らし」がある。里山とは生活資材や農業資材のために人手が加わり成立した山や森林であり、自然遷移が一時的に止められた途中相であるため二次林とも呼ばれる。また里山では、建築の屋根裏を棲み処とする鳥類や、人が管理することで維持される明るい雑木林を棲み処とする生物も多くなる。このように、里山は人の暮らしのため自然に手を加えた環境であり、人と自然が共に暮らすため大切な山と考えられる。

里山は人が暮らす「まち」と人があまり立ち入らない「奥山」との中間域に位置している。奥山は安定した植生で多様な植物や野生生物が棲みついており、生態系や自然環境において重要な場所である。そのため里山は自然豊かな「奥山」と人が暮らす「まち」とを物理的・環境的に距離を置くための中間域となっている。

以上より、奥山の豊かな植生・生態系を維持するため里山を保全することを目的とし、また里山で暮らすことで自然と触れ合い環境問題を再認識させ、改善意識を深めさせることを目的とする。

2. 調査

2.1 対象敷地 「横沢入里山保全地域」

環境省が「里地里山」と認定し、森林環境や多様な生物が確認できる地域が東京にいくつか存在している。その中で東京都あきる野市にある「横沢入里山保全地域」を敷地対象地とし選定した。対象敷地周辺には、人が暮らす「まち」と森林や多様な生物の生息する「丘陵地」とが存在しており、中間域として里山が効果的な場所であると見え、この地域を対象地とした。

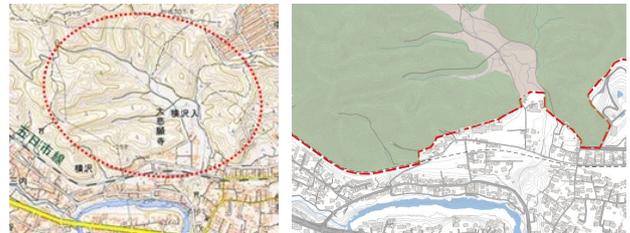


図1 横沢入里山保全地域（環境省より引用）

図2 詳細境界線

2.2 現在の里山保全

横沢入里山保全地域（以降、本保全地域と呼ぶ）では、市民団体により、湿地の復元や外来種の駆除などの活動が行われ、現在では多様な生物を見ることが出来る。しかし、本来の里山における生物多様性は、農作業を伴う人の暮らしに付随したものであり、生物保護を目的とした里山保全は本来の里山の機能と異なると考えられる。

3 里山保全計画

3.1 農業による里山保全

生物保護だけが目的であったこれまでの里山保全に対し、里山の農地利用を加えることで、保護するだけでなく利用できる里山となり、これまでの活動による多様な生物の生息と、農地として利用できる里山として保全されていくと考える。

3.2 高齢者による里山保全

農業従事者の対象として「高齢者」に注目した。現在、横沢入において保全活動を行っている市民団体のうち、多くが高齢者であり、現地へ赴いた際には活動を終え仮設テント内で市民団体の方々が談話している様子が見られた。農業従事者の対象を高齢者とする事で、地域住

民である市民団体のメンバーと農業に従事するメンバーとの高齢者コミュニティができ、これまでの保全活動による生物多様性と農業による里山利用の両立が可能となると考えた。

また、セカンドライフの提案として、農業をしながら豊かな自然に囲まれた暮らしができ、農業に従事することで病気予防や運動機能の向上、生き甲斐をもったセカンドライフを送れるといった利点があると考えた。

以上のことから、本保全地域における農業従事者として高齢者に焦点を置き、高齢者の農業による里山保全を計画した。

4 建築計画

本保全地域において、高齢者が農業に取り組みやすく安心して暮らせるよう、図3に示す建築敷地の選定と、下記のプログラムを計画した。

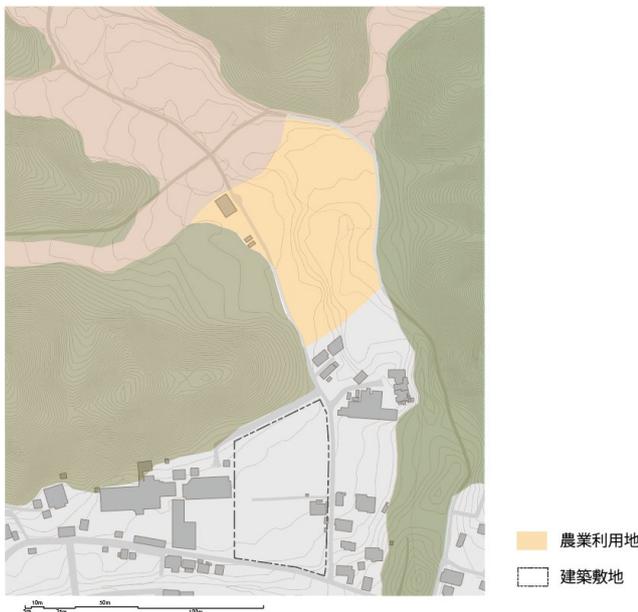


図3 農業利用地、建築敷地の関係図

■プログラム

- ・有料老人ホーム
- ・サービス付き高齢者住宅
- ・農作業場・休憩所
- ・農作物販売所・レストラン
- ・銭湯

4.1 建築計画

- 有料老人ホーム 980m²

高齢者の介護度に合わせた諸室分けを行い、高齢者が交流できる空間形成に重点を置き計画した。

- サービス付き高齢者住宅 465m²

4人が住める賃貸住宅になっており、住民全員が集まれる空間、少人数で会話ができる土間空間、一人になれる

空間を設け、住民の暮らしやコミュニティに合わせた公的空間と私的空間の選択ができるよう計画した。

■農作業場・休憩所 77m²

農業のための倉庫、休憩や作業終わりのための空間として計画した。

■農作物販売所・レストラン 203m²

農業による農作物販売所、それを持ちこいたレストランを計画した。

■銭湯 244m²

サービス付き高齢者住宅に住む高齢者が主に使う施設であり、地域住民も利用できる施設とし計画した。

4.2 配置計画

私的空間と公的空間の配置を考慮し、公的空間において会話が生まれ、その様子が垣間見えるよう動線、空間形成を計画した。



図4 配置計画

図5 サービス付き高齢者住宅 断面図

5. 終わりに

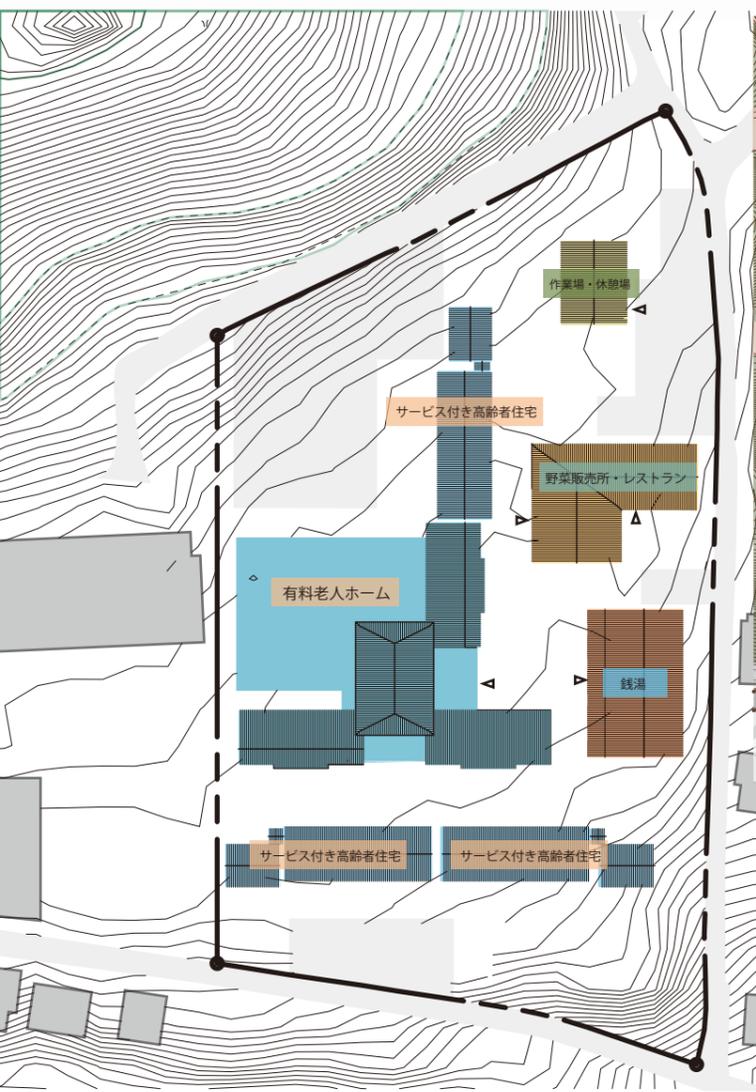
本計画敷地が地域住民にも活用されることで、里山とまち、多世代の人等とをつなぐ重要な場所となること、また里山が保全され奥山の豊かな環境が残されることを願う。

参考文献

- 1) よみがえれ里山・里地・里海 重松敏則+JCVN
- 2) 環境省「重要里地里山」選定地分布東京都
https://www.env.go.jp/nature/satoyama/13_tokyo/tokyo.html
- 3) 日本版CCRCの可能性～地方創生を支える組み合わせ型ビジネス (日本不動産学会誌/第29巻第2号・2015.9)

里山を守る高齢者コミュニティ —高齢者の農業利用による里山保全—

山代研究室
DZ18002 石鍋裕也



東京都あきる野市
「横沢入里保全地域」
里山保全計画



高齢者 × 農業
高齢者の生き甲斐として農業を
農業を軸とした高齢者コミュニティの形成
農業利用による里山保全